

練馬区における地盤について

**第4回 練馬区立大泉第二中学校の教育環境保全および
都市計画道路の整備に関する有識者委員会**

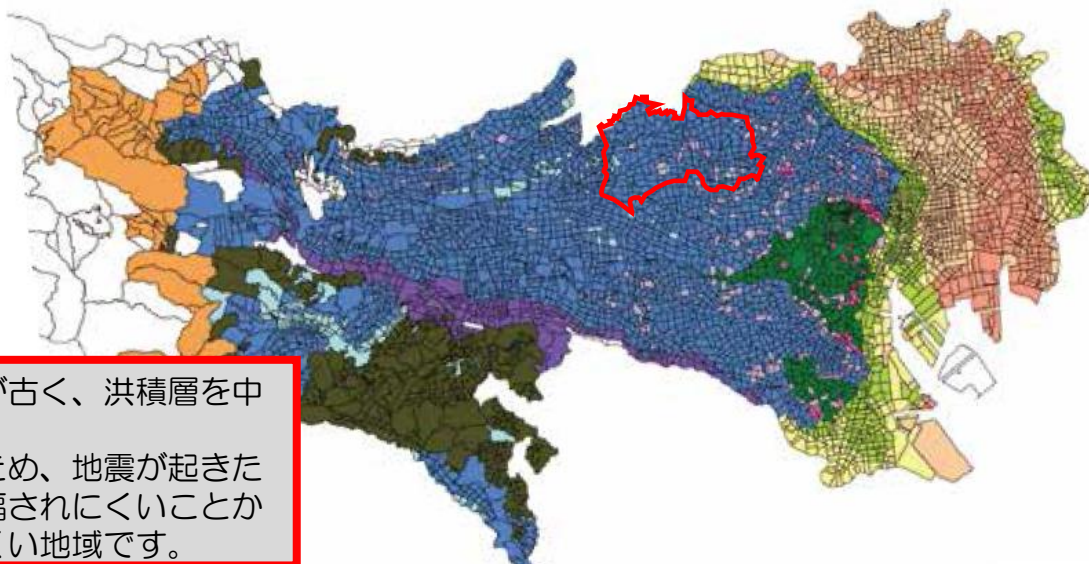
1 東京都における地盤の特徴

●地盤の特徴

東京の地盤は、山地・丘陵地、山の手の台地と、下町の沖積低地、そして台地を刻む谷からできている谷底低地に分類されます。

沖積低地や谷底低地は、地震が起きた場合に揺れが増幅されやすいため、比較的被害が発生しやすい地域です。

本検討区域である東大泉6丁目、石神井台6丁目は下表「**台地1**」に分類されています。



		(増幅率)
山地 Mountains	山地	(1.0)
丘陵 Hills	主に丘陵地	(1.4)
台地 Tableland	台地1 河成礫層の上に 関東ローム層	(1.6)
	台地2 堆積粘土・砂層の 上に関東ローム層	(1.7)

形成された年代が古く、洪積層を中心とした地盤です。
固結した地盤のため、地震が起きた場合でも揺れが増幅されにくいことから被害は発生しにくい地域です。

		軟弱層の厚さ (増幅率)
谷底低地 Valley Lowland	谷底低地1 3m未満	(1.5)
	谷底低地2 3m以上8m未満	(1.8)
	谷底低地3 8m以上	(2.0)

台地を刻む谷底での堆積物でできているため軟弱な地盤です。
地震が起きた場合に沖積低地同様揺れが増幅されやすいため、比較的被害が発生しやすい地域です。

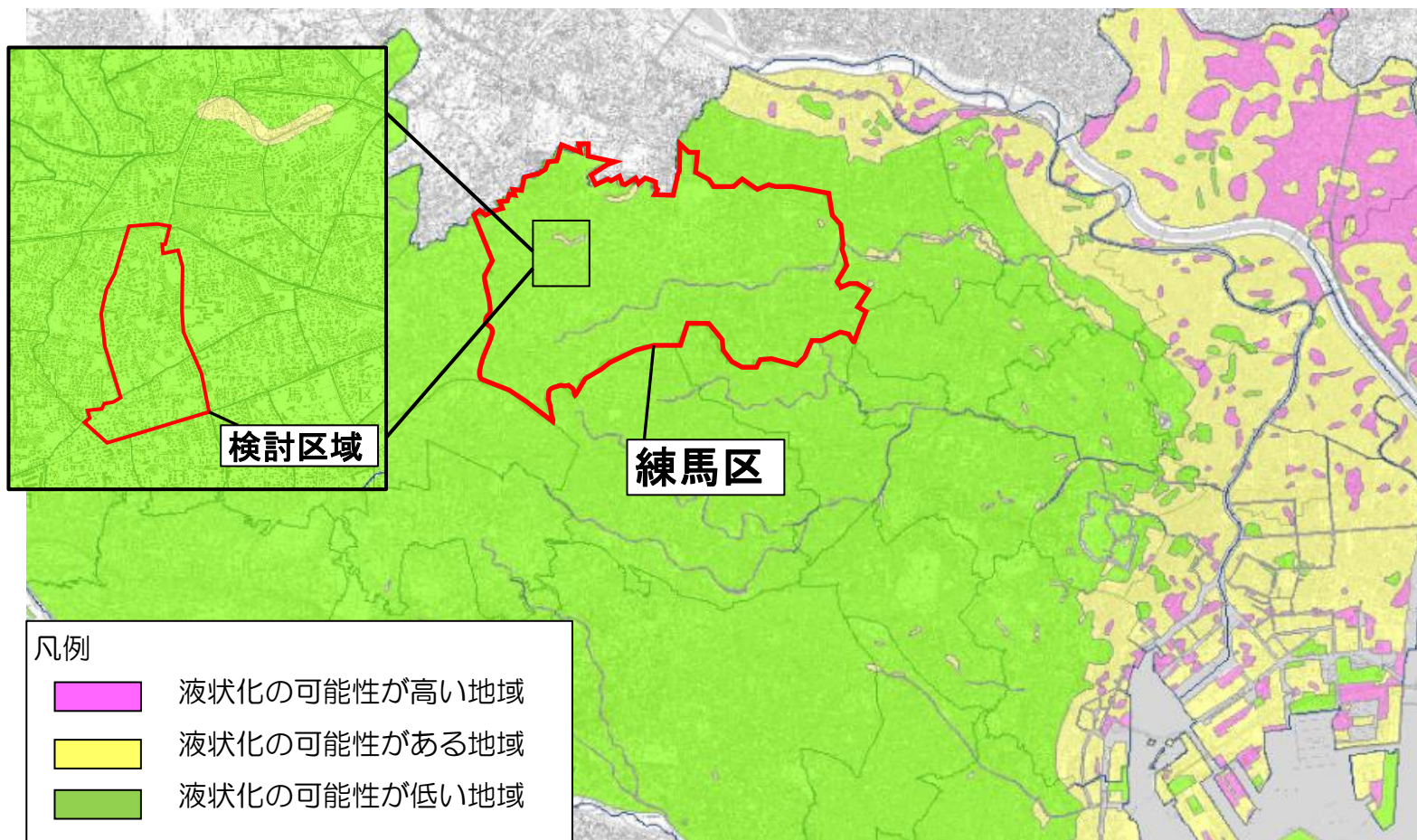
		軟弱層の厚さ (増幅率)
沖積低地 Alluvial Lowland	沖積低地1 (主に河成礫)	(1.5)
	沖積低地2 10m未満	(2.3)
	沖積低地3 10m以上25m未満	(2.6)
	沖積低地4 25m以上40m未満	(2.9)
	沖積低地5 40m以上	(2.9)

形成された年代が新しく、沖積層を中心とした地盤です。
主に海面下での堆積物でできているため軟弱な地盤となっています。
地震が起きた場合に揺れが増幅されやすいため、比較的被害が発生しやすい地域です。また、液状化も起こりやすい地域です。

■出典：東京都都市整備局
地震に関する地域危険度測定調査

2 練馬区における液状化

東京都による液状化予測によると、練馬区では白子川流域の一部に液状化の可能性があるものの、大泉学園駅南側地区においては液状化の可能性が低いとされています。



■出典：東京の液状化予測図 平成24年度改訂版